

卒業生におくることば

田畑 雅英

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、本日は感染症防止のための入場者制限により、残念ながらこの会場にはご列席いただけないのですが、ご家族の皆さま、ご関係の皆様にもお慶びを申し上げたいと存じます。

この2年間ほどは、世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に追われることとなり、それまでは予想もしなかった事態に巻き込まれることとなりました。本学においても、オンライン授業の大幅な導入をはじめ、キャンパスライフも大きく様変わりをする事となりました。学生の皆さんの安全を第一に考えた結果ではありますが、クラブ活動や課外活動にも制限を設けざるを得ませんでした。その点で、皆さんのご期待に十分応えられなかったことはたいへん心苦しく、あらためてお詫びを申し上げたいと思います。また、短期大学部卒業生の皆さんと、栄養科学研究科・社会起業研究科修了生の皆さんには、2年前に入学式を行なうことができませんでした。その意味でも、こうして、規模は縮小しながらも、せめて卒業式を開催できたことに安堵しております。

さて、大学や短期大学部を卒業して、これからがいよいよ皆さんの本当の人生です。これまでの年月は、そのための準備の期間だったとも言えますが、コロナ禍の収束がまだ見通せない中で、皆さんは卒業を迎えます。コロナ禍だけでなく、ここしばらくのニュース

を見ても、世界の情勢が激動していることは申すまでもありません。こうした世界や社会の中で、自分はしっかり生きていくことができるのだろうか、不安を覚える方もいるかもしれません。

確かに、長い人生の中で、社会や自分に何が起こるかすべて見通すのは困難です。コロナ禍や 11 年前の東日本大震災が予測できなかったように、思いがけない波乱に見舞われることもあるかもしれません。ですから、私たちに必要なことは、波乱に遭遇しない幸運を祈ることよりも、波乱を乗り越えていく力を身につけることであると思います。もちろんそれは必ずしもたやすいことではありませんし、一人の力だけでできることでもなく、他の人たちとの協働も必要です。その点も含めて、波乱を乗り越えて生きていく基礎を、私たちは皆さんに身につけてほしいと願い、皆さんの在学中、授業をはじめさまざまな活動の機会を提供してきました。

もちろん、「これぐらいでは不十分だ」「自分にはまだその力がついていない」と思う人もいるかもしれません。しかし、たとえばある仕事を自分としては初めて行なうという場合に、そのための十分な力が自分の中にあらかじめ蓄えられているというケースは、実はあまりありません。その仕事を実際に行なう過程で、だんだんに力が身についてくる場合がほとんどなのです。

そこには経験という要素が大きく関係していると思います。実際に経験することで得られる経験知は、物事の洞察や遂行に大きな意味を持っています。19 世紀スコットランド

出身の思想家トーマス・カーライルは、「経験は最良の教師である」というよく知られた言葉を述べていますが、皆さんがこれから、人生を送っていく中で、経験によって学ぶことは本当に多いと思います。

しかし、カーライルのこの言葉には、実は続きがあります。カーライルは、「経験は最良の教師である。ただし授業料が高すぎる」と言っているのです。もちろん新しい経験することは新鮮な喜びをもたらしますが、この少し皮肉な言葉のように、場合によっては楽しいことばかりではないかもしれません。また、経験ばかりにとらわれると、これまでのやり方から抜け出せず、新たな発想の妨げになるのではないかという心配もあるでしょう。

でも、そこでひるまないでほしいと思います。ある経験についてよく批判的に考え、それ以後に活かすことを心がければ、経験を力とし、前へ進んでいけると 생각합니다。本学で学んだものの考え方、発想の仕方、知識や知恵、また、そこでできた友人たちや人間関係が、皆さん一人一人の人生を送っていく支えとなることを願っています。どうかたくさん経験の積み、それを力としていってください。

ただし、無理をしすぎないでほしいと思います。時には立ち止まることも必要ですし、皆さんには十分時間があります。あせらず、しっかり進んでください。そして、もし迷ったら、どうかいつでもこの母校を訪ねてきてください。私たち教職員は、皆さんの卒業後も、いつでも皆さんをお待ちしています。

栄養科学研究科修了生の皆さんは、栄養学を専門に研究してきました。その皆さんには
釈迦に説法だと思いますが、食は生命の基礎です。ヒトがますます長い人生を送れるよう
になると、その長い人生の QOL をいかに高めるかが課題となるわけですが、そのために
栄養学の必要性はこれまで以上に高まっていると言えます。もちろん学問としての自律性
は、単に実利的な面だけでは測れないでしょうが、こうした社会的な要請にもよく耳を傾
けていただいて、ますます専門家としての研鑽を積まれることを期待しております。

社会起業研究科修了生の皆さんは、研究科が設立されて、記念すべき最初の修了生の
方々です。皆さんの後に続く後輩たちのためにも、誇りをもって活躍してほしいと思いま
す。皆さんのフィールドは、実際に多様な人々が生活している社会です。そこには、デー
タやトレンドに集約しきれない、さまざまな事情や願いがひしめいています。皆さん一人
一人が、社会を対象とする専門家であると同時に、こうした社会の一員でもあることを忘
れずに、大学院で学んだ知識や方法を十分に活かして、地域と社会に新たな展望を示し、
活力をもたらしてくださることを、大いに期待しております。

簡単ではございますが、以上をもちまして、卒業生におくる言葉といたします。